

1972年 大会記録

国際

◇グルジア国際大会=フリースタイル(2月4~6日、ソ連・トビリシ)

▼52kg級 渥美敏範(日大)=2位、▼57kg級 佐竹秀敏(専大)=二失、▼62kg級 原田政光(日大)=二失、▼74kg級 伊達治一郎(国士舘大)=三失、▼82kg級 茂木優(国士舘大)=二失

◇ポズグニー国際大会=グレコローマン(3月2~5日、ソ連・ミンスク)

▼62kg級 山田敏夫(法大)=二失、大石八郎(日体大)=二失、▼68kg級 小林武(自衛隊)=三失、▼74kg級 伊沢厚(法大)=6位

◇USWF全米選手権=フリースタイル(3月30日~4月2日、米国スティルウォーター)

▼48kg級 新島博正(国士舘大)=2位、▼52kg級 渥美敏範(日大)=優勝、▼57kg級 柳田英明(大都リッチランド)=優勝、▼62kg級 阿部巨史(自衛隊)=優勝、▼68kg級 和田喜久夫(明大)=優勝、金子邦雄(新東部日産) ▼74kg級 池嶋英哲(青山学院大)、▼82kg級 米山守(大東大)、

◇AAU全米選手権(4月12~16日、米国クリーブランド)

《フリースタイル》▼48kg級 高村勝義(拓大)=3位、▼62kg級 池野哲也(米国在住)=優勝、坂本修(拓大)=3位、▼68kg級 榎本薫(専大)=2位、中村文昭(米国在住)=3位

《グレコローマン》▼48kg級 高村勝義(拓大)=3位、▼57kg級 中田保彦(大阪・交野中教)=2位、八田正朗(米国在住)=4位、▼62kg級 岩井角夫(日体大)=6位、長谷川和彦(日体大)=四失、羽鳥三郎(青山学院大)=三失、▼68kg級 桜井藤雄(日体大)=5位、▼74kg級 伊藤寛明(日体大)=三失、▼90kg級 下田正二郎(大東大)=二失

◇ミュンヘン五輪(8月27日~9月9日、西ドイツ・ミュンヘン)

《フリースタイル》▼48kg級 梅田昭彦(米盛商事)=6位、▼52kg級 加藤喜代美(三信電気)=優勝、▼57kg級 柳田英明(大都リッチランド)=優勝、▼62kg級 阿部巨史(自衛隊)=4位、▼68kg級 和田喜久夫(明大)=2位、▼74kg級 吉田敏忠

(アイシン精機) = 二失、▼82kg 級 佐々木龍雄 (自衛隊) = 5 位、▼90kg 級 鎌田誠 (中大) = 二失、▼100kg 級 矢田静雄 (和歌山・粉河高教) = 二失、▼100kg 以上級 磯貝頼秀 (早大) = 三失

《グレコローマン》▼48kg 級 石和和春 (小玉合名) = 6 位、▼52kg 級 平山紘一郎 (自衛隊) = 2 位、▼57kg 級 山本郁栄 (日体大教) = 五失、▼62kg 級 藤本英男 (日体大教) = 4 位、▼68kg 級 田上高 (鹿児島・甲南高教) = 5 位、▼74kg 級 伊達治一郎 (国士舘大) = 三失、▼82kg 級 佐藤貞雄 (大東大) = 三失、▼90kg 級 谷公市 (和歌山県教育庁) = 四失、▼100kg 級 斎藤真 (日大) = 二失、▼100kg 以上級 鶴田友美 (中大) = 二失

国内

◇全国高校選抜大会 (4月2日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工、[2] 新潟・新潟東工、[3] 山形・山形商、秋田・五城目

◇東日本学生リーグ戦 (5月16～19日、東京・世田谷区立体育館)

《順位》[1] 中大 (7年ぶり10度目)、[2] 国士大
(A組順位) [1] 中大、[2] 拓大、[3] 日体大、[4] 日大、[5] 早大、[6] 慶大
(B組順位) [1] 国士大、[2] 明大、[3] 専大、[4] 大東大、[5] 東洋大、[6] 青山学院大

◇西日本学生春季リーグ戦 (5月26～28日、大阪・大阪府立体育会館)

《順位》[1] 同志社大 (3年連続3度目)、[2] 福岡大、[3] 近大、[4] 中京大、[5] 桃山学院大、[6] 関大、

◇全日本社会人選手権 (6月9～11日、東京・青山レスリング会館)

《団体戦・実業団対抗優勝》三信電気、《団体戦・クラブ対抗優勝》斎藤道場

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 梅田昭彦 (米盛商事)、▼52kg 級 山川忠正 (杉並ク)、▼57kg 級 加藤光利 (米盛商事)、▼62kg 級 千葉良 (自衛隊)、▼68kg 級 林富夫 (和歌山ク)、▼74kg 級 河内政彦 (チドリヤ)、▼82kg 級 安部段一 (チドリヤ)、▼90kg 級 日比野喜代治 (自衛隊)、▼100kg 級 滝沢信也 (東京ク)、▼100kg 以上級 = 参加なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 山口隆三（茨城大OB）、▼52kg 級 石和和春（小玉合名）、▼57kg 級 杉山三郎（松阪ク）、▼62kg 級 児玉和雄（和歌山ク）、▼68kg 級 平井一十司（日大OB）、▼74kg 級 西村盛正（日大OB）、▼82kg 級 松浪健四郎（木口道場）、▼90kg 級 三戸豊治（警視庁）、▼100kg 級 服部勤（岐阜ク）、▼100kg 以上級＝参加なし

◇東日本学生春季新人戦（6月22～24日、東京・世田谷総合体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 工藤章（専大）、▼52kg 級 荻場勇光（専大）、▼57kg 級 前川健吉（国士舘大）、▼62kg 級 宮原章（明大）、▼68kg 級 淀川英美（中大）、▼74kg 級 伊藤良和（専大）、▼82kg 級 藤田芳弘（専大）、▼82kg 以上級 平田靖之（国士舘大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大西浩三（日体大）、▼52kg 級 京田修（日大）、▼57kg 級 芳賀輝行（日体大）、▼62kg 級 小川憲二（専大）、▼68kg 級 伊藤文雄（専大）、▼74kg 級 星谷晴輝（日大）、▼82kg 級 藤田芳弘（専大）、▼82kg 級以上 武田誠一（中大）

◇西日本学生選手権（6月24～25日、大阪・大阪府立体育会館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 前田行雄（大体大）、▼52kg 級 小崎光也（近大）、▼57kg 級 曾和政人（近大）、▼62kg 級 高木茂（同志社大）、▼68kg 級 角田純一（同志社大）、▼74kg 級 藤永哲男（福岡大）、▼82kg 級 松田高邦（桃山学院大）、▼82kg 以上級 中沢正春（同志社大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 前田行雄（大体大）、▼52kg 級 長尾勇（同志社大）、▼57kg 級 曾和政人（近大）、▼62kg 級 高木茂（同志社大）、▼68kg 級 魚野歳雄（桃山学院大）、▼74kg 級 藤永哲男（福岡大）、▼82kg 級 松田高邦（桃山学院大）、▼82kg 以上級 中沢正春（同志社大）

◇全日本選手権＝フリースタイル（6月29日～7月2日、茨城・笠間市体育館）

《優勝者》▼48kg 級 梅田昭彦（米盛商事）、▼52kg 級 加藤喜代美（三信電気）、▼57kg 級 柳田英明（大都リッチランド）、▼62kg 級 阿部巨史（自衛隊）、▼68kg 級 和田喜久夫（明大）、▼74kg 級 吉田敏忠（アイシン精機）、▼82kg 級 佐々木竜雄（自衛隊）、▼90kg 級 鎌田誠（中大）、▼100kg 級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）、▼100kg 以上級 磯貝頼秀（早大） 鶴田友美（中大）＝両者優勝

◇全日本選手権＝グレコローマン（7月5～7日、千葉・佐倉高）

▼52kg 級 杉山三郎 (三重・松阪工高教)、▼57kg 級 山本郁栄 (日体大教)、▼62kg 級 藤本英男 (日体大教)、▼68kg 級 田上高 (鹿児島・甲南高教)、▼74kg 級 伊達治一郎 (国士大)、▼82kg 級 開健二郎 (自衛隊)、▼90kg 級 佐藤貞雄 (大東大)、▼100kg 級 = 出場なし、▼100kg 以上級 鶴田友美 (中大)

◇インターハイ (8月2～5日、山形県・上山南中)

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工、[2] 山形・山形商、[3] 秋田・五城目、茨城・土浦日大

《個人戦》▼48kg 級 円山末吉 (栃木・足利工大付)、▼52kg 級 山路明 (鹿児島・鹿児島商工)、▼56kg 級 三丸逸夫 (長崎・島原)、▼60kg 級 橋本嘉千男 (青森・八戸)、▼65kg 級 平沼義範 (青森・八戸工)、▼70kg 級 横山勝幸 (青森・光星学院)、▼75kg 級 小柳美代志 (秋田・秋田商)、▼75kg 以上級 清水一夫 (岡山・岡山日大)

◇全日本学生選手権 (9月6～8日、東京・駒沢体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 平田茂 (国士館大)、▼52kg 級 伊藤一雅 (早大)、▼57kg 級 前川健吉 (国士館大)、▼62kg 級 宮原章 (明大)、▼68kg 級 七尾秀敏 (国士館大)、▼74kg 級 伊藤良和 (専大)、▼82kg 級 茂木優 (国士館大)、▼90kg 級 飯野祐邦 (明大)、▼90kg 級以上 熊坂勇一 (明大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 高村勝義 (拓大)、▼52kg 級 桜間幸久 (日体大)、▼57kg 級 吉田栄勝 (専大)、▼62kg 級 宮原照彦 (日体大)、▼68kg 級 坂田茂 (日体大)、▼74kg 級 二田隆 (日体大)、▼82kg 級 茂木優 (国士館大)、▼90kg 級 飯野祐邦 (明大)、▼90kg 級以上 細越和夫 (大東大)

◇西日本学生新人戦 (9月15～16日、大阪・桃山学院大)

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級、▼52kg 級、▼57kg 級、▼62kg 級、▼68kg 級、▼74kg 級、▼82kg 級、▼90kg 級、▼100kg 級、▼100kg 以上級

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 中岡 (桃山学院大)、▼52kg 級 前田行雄 (大体大)、▼57kg 級 荒木 (大体大)、▼62kg 級 大関 (大体大)、▼68kg 級 作本二郎 (大体大)、▼74kg 級 井尻裕 (近大)、▼82kg 級 斎藤 (大体大)、▼82kg 以上級 橋本節夫 (桃山学院大)

◇全日本学生王座決定戦 (10月13～14日、東京・日大講堂) = 決勝成績

明大○ [4 - 3] ●国士館大

※明大は8年ぶり5度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権 () =決勝成績

日体大○ [] ●

※日体大は6年連続6度目の優勝

◇国体 (10月23～26日、鹿児島枕崎市・加世田高、枕崎高、国分実高)

《一般フリースタイル優勝者》▼48kg級 工藤章(岩手・専大)、▼52kg級 佐々木禎(静岡・日体大)、▼57kg級 中島俊美(岐阜・羽島高教)、▼62kg級 田中忠道(福岡・福岡大教)、▼68kg級 和田喜久夫(新潟・明大)、▼74kg級 伊達 治一郎(大分・国士舘大)、▼82kg級 永野要祐(和歌山・県教育庁)、▼90kg級 茂木優(秋田・国士舘大)、▼100kg級 谷公市(和歌山・県教育庁)、▼100kg以上級 磯貝頼秀(千葉・早大)

《一般グレコローマン優勝者》▼48kg級 石田和春(秋田・小玉合名)、▼52kg級 平山紘一郎(鹿児島・国分自衛隊)、▼57kg級 桜間洋二(埼玉・自衛隊)、▼62kg級 大石八郎(東京・オリンピックサンワーズ)、▼68kg級 田上高(鹿児島・甲南高教)、▼74kg級 岡唯勝(徳島・池田高教)、▼82kg級 伊沢厚(静岡・法大)、▼90kg級 佐藤貞雄(埼玉・大東大)、▼100kg級 斎藤真(山形・日体大)、▼100kg以上級 西田信一郎(富山・自営)

《高校フリースタイル優勝者》▼48kg級 大木政美(静岡・修善寺工)、▼52kg級 大森浩一(茨城・大子一)、▼56kg級 畠山一彦(秋田・秋田商)、▼60kg級 橋本嘉千男(青森・八戸)、▼65kg級 平沼義範(青森・八戸工)、▼70kg級 横山勝幸(青森・光星学院)、▼75kg級 小柳美代志(秋田・秋田商)、▼81kg級 小島章造(青森・八戸工)、▼87kg級 田畑照雄(鹿児島・枕崎)、▼87kg以上級 清水一夫(岡山・岡山日大)

《高校グレコローマン優勝者》▼48kg級 滝俊三(三重・松阪工)、▼52kg級 山路明(鹿児島・鹿児島商工)、▼56kg級 車進二(富山・高岡商)、▼60kg級 橋口哲三(埼玉・川口)、▼65kg級 御領園広康(鹿児島・鹿児島商工)、▼70kg級 久野均(石川・星稜)、▼75kg級 清水輝夫(群馬・館林)、▼81kg級 長谷川正治(新潟・巻農)、▼87kg級 佐藤晃司(群馬・館林)、▼87kg以上級 引地浩一(神奈川・法政二)

◇東日本学生秋季新人戦 (11月5～7日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 山崎正人(中大)、▼52kg級 高田裕司(日体)

大)、▼57kg級 金子博(明大)、▼62kg級 我如古和徳(日大)、▼68kg級 菅原弥三郎(国士舘大)、▼74kg級 石田昭(明大)、▼82kg級 伊藤良和(専大)、▼82kg以上級 藤田芳弘(国士舘大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 更谷栄二(大東大)、▼52kg級 宇野勝彦(日体大)、▼57kg級 佐々木禎(日体大)、▼62kg級 鈴木伸彦(明大)、▼68kg級 菅原弥三郎(国士舘大)、▼74kg級 野山繁(大東大)、▼82kg級 伊藤良和(専大)、▼82kg級以上 藤田芳弘(国士舘大)

◇全日本団体優勝大会=社会人・学生対抗戦(11月25日、東京・青山レスリング会館)

学生選抜○ [9-2] ●社会人選抜

◇西日本学生秋季リーグ戦(11月26~28日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1] 福岡大(初)、[2] 同志社大、[3] 近大、[4] 桃山学院大、[5] 中京大、[6] 名城大